

津田昇平教話 第四一〇話

令和四年二月十四日 朝の教話

今日もありがとうございます（下）



今日もありがとうございます、今日もありがとう

とうございます（下）

おはようございます。令和四年二月十四日の朝をお迎えすることができました。

年頭のみ教えを頂いております。昨日は、

氏子<sup>うじこ</sup>らは、情けない、つらいことだと先を案<sup>あ</sup>じずに、今日もありがとうございます、今日もありがとうございます、すと思ひ、神様のおかげで雨にも遭<sup>あ</sup>わず露<sup>つゆ</sup>にも遭<sup>あ</sup>わず、ひもじい目も寒い目もせず、ありがたいことと喜べ。

〔理Ⅱ 柏原<sup>かしわばら</sup>とく七〕

というみ教えを頂きました。今日もそのみ教えを頂きます。

氏子<sup>うじこ</sup>らは、情けない、つらいことだと先を案じずに、今日もありがと  
うございます、今日もありがとございますと思ひ、神様のおかげで雨  
にも遭<sup>あ</sup>わず露<sup>つゆ</sup>にも遭わず、ひもじい目も寒い目もせず、ありがたいこと  
と喜<sup>よろこ</sup>ぶ。

氏子らは、情けない、つらいことだと先を案じずに、今日もありがと  
うございます、今日もありがとございますと思ひ、神様のおかげで雨  
にも遭<sup>あ</sup>わず露<sup>つゆ</sup>にも遭わず、ひもじい目も寒い目もせず、ありがたいこと  
と喜<sup>よろこ</sup>ぶ。

これはもう、お互いみんな、そういうおかげを頂いておりますので、

今日もありがとうございます、今日もありがとうございます、お天道様てんどうさまがお照らし下さるのも神様のおかげやし、雨が降るのも神様のおかげやし、食事を頂くことができるのも神様のおかげやし、用を足せるのも神様のおかげやし、歩くことができる、寝ることができる、買い物に行ける、学校に通える、仕事に行く、車を運転する、自転車じてんしゃを運転する、歩くこともできて、本を読んだり、音楽を聴きいたり、テレビ見たり、これも神様のおかげやし、寒い時でも、暑い時でも体温を調整してください、悪いものは大便小便でお取り払いも頂けるし、そして神様が、この天地の間で生きることができるよう、生かしてやろうと必要なものすべて愛情として注いで下される。

そのおかげの中で、そのお守りの中で、生かされて生きることができ  
る。神様の深いご慈愛ごあはれを頂いて、そのお恵みを頂いて、そして生きるこ  
とができていることを、ただただ、「今日もありがとうございます、今日  
もありがとうございます」と、神様のおかげであると喜ばして頂く。あ  
りがたい、畏れおそ多い、勿体もったいない、ありがたき畏れ多きもったいなき、こ  
のみきの心で今日も過すごさして頂きたいと思えます。

今日も仕事に行くことができる、電車に乗れる、これも本当にありが  
たいことです。服を着ることができ、着る服がある、これも本当にあ  
りがたいことです。暖房たんぽうをつけることができ、電気がつく、水が出る、  
ガスもあるし、お料理もできる、ご飯ごが炊たける、みんな神様のおかげで

す。冷蔵庫を開ければ食材がある、これも神様のおかげです。神様のおかげの中で生活をする事ができております。そのことをまた、「今日もありがとうございます、今日もありがとうございます」と、当たり前のこととして片付けしないで、当たり前で片付けずに、一つひとつ、ありがたい畏れ多い勿体ないおかげで、何一つとして私たちには作ることができないものばかりですから、ただただ恵んで頂いて、そのお恵みの中で生かされて生きている事ができるんですから、その恩を忘れずに、「今日もありがとうございます、今日もありがとうございます」と、口先だけでなく、やはり喜ばして頂くとということが大事やと思います。

喜び上手のお礼上手で、今日も一日、神様のおかげを噛み締めながら



今の今、今日もありがとございますという心で過ごして頂きたいものだと思います。また、それを信心と言います。

氏子らは、情けない、つらいことだと先を案じずに、今日もありがとございます、今日もありがとございますと思いい、神様のおかげで雨にも遭わず露にも遭わず、ひもじい目も寒い目もせず、ありがたいことと喜び入。

これを幸せと言います。よくお参りでした。

(了)



津田昇平教話 第四一〇話

令和四年二月十四日 朝の教話

今日もありがとうございます(下)

令和四年四月一日 初版発行

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五

